

# 企業紹介

## 手描き・手絞りで幻想的な 花模様の着物「夢幻辻が花」を製作

株式会社 桐屋  
翠山工房

代表取締役 田村 憲一  
〒948-0046 十日町市明石町3  
TEL(025)757-0525 FAX(025)752-5660  
URL <http://www.suizankoubou.com/>

業 種：織物  
資 本 金：4,000万円  
事業内容：絹織物製造

高級絹織物産地である十日町市で、140年の歴史を刻んできた老舗織物業の(株)桐屋。同社の代表的な着物「夢幻辻が花」には、職人が丹精を込めて描いた華麗な花模様と絞りが施してあり、幻想的な雰囲気の中に、上品さや優雅さが見事に表現されている。今年4月に開催された「十日町きものフェスタ」では、同社の作品が最高賞に輝くなど、幅広い層から高い評価を得ている。

### 後染めの全工程を自社で行う一貫生産体制を確立

同社が絹織物業として創業したのは明治元年。創業者である田村久平氏は、当地の美しい景観から生産の場を「翠山工房」と命名し、創作活動を開始。染めた糸で柄を織り出す「先染め」の着物を中心に製作し、地域とともに発展してきた。その後、生活環境が変化し普段着としての着物需要が低下するなか、同社ではいち早く、白生地に柄を染め上げていく「後染め」加工へと転換し、昭和40年代には染織加工部門を設けて、さらなる加工技術の強化を図った。現在では、意匠考案から仕上げまで全工程を自社で行う一貫生産体制を確立させ、絞り友禅などの振袖や訪問着など高付加価値商品を中心に製作している。



▲絞り友禅の豪華絢爛な振袖

### 絞り友禅「夢幻辻が花」

同社の製作する着物は、「辻が花」と呼ばれる華やかな花模様と立体感のある絞りが特徴だ。「辻が花」とは、室町時代中期から江戸時代初期までの間に製作された絞り染めの着物と言われているが、その発生時期、名前の由来など多くの謎を秘めている。同社では、その花模様を現代風にアレンジし、絞り友禅「夢幻辻が花」ブランドを誕生させた。伝統的な手法は変えずに、職人が一筆一筆丁寧に柄を手描きし、彩色し、糸で絞って染め上げていく。完成までに半年以上かかるものもあり、妥協を許さない職人達が創り上げた作品は、幻想的な雰囲気の中上品さや優雅さが見事に表現されている。



▲手描きで柄中を彩色する

### 「十日町きものフェスタ2008」で最高賞を受賞

十日町市で毎年4月に開催される、織物メーカーによる新作発表会「十日町きものフェスタ」では、全国の卸商社、小売業者や一般の来場者が投票する審査会も同時に行われる。そして、今年の審査会で最高賞である経済産業大臣賞を受賞したのが、同社の作品「桂林振袖」だ。同作品は、中国を代表する景勝地、桂林のそそり立つ山々を背景に、「辻が花」染めにアレンジしたもので、花柄全てに彩色を施し、一つひとつに絞りを加えている。田村社長は、「常に社員には『それぞれの分野で頂点に立て』と伝えてきました。今回の名誉ある賞はその結果でしょう」と力強く語る。



▲最高賞に輝いた「桂林振袖」